

**ハンドボール**  
(24日・ANAアリーナ浦添)

▽準決勝	神 森 29-23 浦 西	【女子】	▽準決勝	仲 西 26-18 東 風	平 森
	浦 添 33-22 松 島			西 22-15 神	
▽決勝	神 森 32(18-18)31 浦 添	▽決勝	仲 西 24(9-11)23 浦 西		

# 神森V 激闘1点差で制す



男子決勝 神森-浦添 後半、神森の新垣瑛太郎がシュートを放つ(ANAアリーナ浦添(田嶋正雄撮影))

## サイドからの攻撃実る 男子

男子決勝は神森が接戦の末、32-31で浦添を下した。前半から一進一退の攻防。スピードと運動量を誇る神森

は相手エースを抑え込むことに集中。だがディフェンスのバランスが崩れ、エース以外に得点を許し、14-15と1点ビハインドで折り返した。

ハーフタイムで山内昌悟監督はポストやセンタープレーヤーなど、他の選手へケアを求め、中央からのシュートに偏り単調になっていた攻撃もサイドへ散らすよう指示した。

後半、外間優志の右サイドからのシュートや主将の新垣瑛太郎がディフェンスの上か

ら決めるなど攻守がかみ合い、じわじわと点差を広げた。日頃から走り込んでいるスタミナを生かし、足は止まらない。終盤、激しい追い上げを受けたが、逃げ切りに成功した。

チーム最多9得点と活躍した新垣主将は「九州大会でもこの仲間と戦えることがうれしい」と喜び、「まずは全国大会へ行ける4強を目標にして、優勝も狙いたい」と決意を語った。

(内間健)



男子優勝の神森

## 仲西に栄冠 終盤逆転劇 女子

### 守備や陣容修正図る

女子仲西は後半の逆転劇で24-23で浦西を振り切った。

前半は相手にロングシュートや速攻を決められ、9-12とリードを許した。

シュートミスが多かったが、「シュートまでいけばチャンスは出てくる」(仲村幸一監督)と前向きに捉え、「守って速攻」を確認した。ディフェンスの当たりやフォーメーションの修正も図った。

後半、大城佑月の速攻やサイド攻撃が決まるとリズムが生まれ、20分に1年生の島尻三千夏がポストから決めて勝ち越しに成功。終盤の相手の追い上げをしのぎ、栄冠を手にした。

仲村監督は「苦しい戦いだったが、選手たちはよくやってくれた」とねぎらった。大城詩主将はチーム最多の11得点を挙げた大城佑の活躍をたたえ、「九州大会でも走る攻撃的なディフェンスで優勝したい」と闘志を燃やした。



女子優勝の仲西



女子決勝 仲西-浦西 前半、仲西の島尻三千夏が9点目のシュートを決める